

不二製油グループ本社株式会社 2020 年度第 3 四半期決算電話会議 主な質疑応答

・日時 : 2021 年 2 月 5 日 (金) 16:00~17:00
・スピーカー : 取締役 最高財務責任者 (CFO) 松本 智樹

<全体の業績について>

Q. 来期の見方について

A. 新型コロナウイルスの影響は低減し、来上期の販売数量は堅調に推移するとみている。その中で、足元の原料相場の高騰をいかにコストダウン等で吸収できるかがポイントになる。また、新型コロナウイルスの影響の低減によるブラマーの収益性回復がドライバーとなるほか、中国のパン市場向けの好調な販売による利益寄与に期待したい。

Q. 原料相場の高騰の影響について

パーム油相場の高騰による影響は当 3Q から徐々に出てきており、特に植物性油脂事業においては来期以降の大きなリスクとなる。原料相場は今後も大きく変動する可能性があり慎重に見ている。

来期以降は販売価格への原料コスト転嫁が求められるが、相場の上昇が急激であったこと、また消費が弱く供給過多の事業環境であることから、適正価格への転嫁には一定の時間を要することが想定される。

<ブラマーについて>

Q. 来期の業績をどのようにみるか

A. 今年度においては、新型コロナウイルスの感染拡大が広がる米国において、ブラマーの従業員も多く罹患した。生産と供給維持を優先し、工場の消毒や臨時雇用の増加などのコスト増により収益性が悪化したほか、一部の改善施策については遅れた部分もあった。また、チョコレート市場全体の需要減少により、カカオ事業における加工マージンも弱含んだ。

来期については、カカオ豆の伊藤忠購買スキームへの完全移行により先物損益計上によるボラティリティは限定的になる。そのため、来期は先物益の計上は見込まないが、新型コロナウイルスの影響低減に加え、老朽化設備の改善や生産性向上施策を推し進め、今期並み（カカオ豆の先物益 + 11 億計上を含む）の利益を確保したいと考える。

Q. 米国の業務用チョコレートビジネスの競争状況に変化はあるか

A. 足元の北米のチョコレート市場の成長は - 2 % 程度とみており、落ち込みは大きくはない。主要な競合各社において、新型コロナウイルスによる生産活動への影響状況に違いがあったことから、短期的には主要マルチナショナルカンパニーからの受注状況には変動もあった。しかし、全体としては競争状況やシェアなどの構造に大きな変化はないとみている。

<その他>

Q. Q3 における乳化・発酵素材事業の堅調な販売状況に対し、増益幅が小さいのは何故か

A. 日本では家庭内消費の増加により特にデザート向けなどでクリーム製品が好調に推移したものの、新型コロナウイルスの影響による外食市場の減少などが残り、全体としては強くはない。中国のパン市場向けのマーガリンやフィリング等の製品は力強い販売を継続するも、原料価格の上昇による一部製品での採算低下が影響しているほか、アジアの調製品事業の日本向け販売の減少などの影響が残っている。

以上